

平成25年度第2回花巻市介護保険運営協議会議事録

- 1 日 時 平成26年2月13日(木) 午後1時30分～午後2時25分
- 2 場 所 花巻保健センター 2階 集団指導室
- 3 配布資料 別添のとおり
- 4 出席者 委員 橋本純子、佐々木昭男、狩野隆史、高橋信夫、佐々木一広、伊藤芳江、畠山良彦、小木田勇輝、高橋明美、高橋修、那須秀逸、熊谷雅順、高橋照幸、藤本莞爾、影山一男
(欠席：朝倉千里、伊藤成子、似内久展)
- | | | |
|-----|--------------|-------|
| 事務局 | 花巻市生活福祉部長 | 大竹 昌和 |
| | 生活福祉部長寿福祉課長 | 玉山 進 |
| | 長寿福祉課長補佐 | 高橋 和廣 |
| | 同 介護保険係長 | 菊池 司 |
| | 同 高齢福祉係長 | 坊澤 尚行 |
| | 同 上席主任 | 似内 泉 |
| | 健康こども部健康づくり課 | |
| | 成人保健係主任主査兼係長 | 佐藤 陽子 |

5 会議内容は次のとおりである。

開 会

高橋課長補佐

会長挨拶

影山会長 限られた時間だが、よろしくお願ひしたい。

議 長 花巻市介護保険運営協議会規則第4条第2項に基づき、会長が議長となる。

報告事項

(1) 介護保険事業に関する動向について(高橋課長補佐が説明)

質疑応答

影山会長 法改正前であり、内閣でも方針が定まっていなところであるが、詳しい内容が聞きたいところがあれば、質問してほしい。

高橋(照)委員 まだ確定していない中での質問となるが、生活支援のコーディネーターや認知症地域支援推進員など、人に関わるものが多い。人口規模に応じた人員体制の基準はあるのか。

高橋課長補佐 生活支援の関係で、地域に情報を提供する先生の研修は県にやってもらっているが、いずれ市町村に降りてくるのかは不明。認知症に関しては、市民への教育を行っていかなければならない。包括支援センターについては、市の条例制

定が必要となるが、国では詳しい基準を出していない。しかし、地域ケア会議の基幹となる包括支援センターの人員体制の強化は必要だ。

影山会長 地域支援事業の見直しに併せた予防給付の見直しについて方向性は決まっているが、具体的なイメージはまだのようだ。ほかにないか。

高橋（照）委員 介護人材の確保について。県内の社会福祉協議会の集まりでも話題になったが、どのようにすれば福祉に目がいくのか。福祉系の学校を出ても、介護の職場にはこない。人材を確保するための具体的対策はあるのか。

高橋課長補佐 資料にあるとおり、国では詳しい話をしていない。求職者は、介護職は3Kの職場と認識しており、特に給料が安いのが課題。国は第5期計画で処遇改善加算を導入したが、まだ安価である。せっかく資格を持っている人でも長続きしない。これは全国的な課題で、処遇改善加算が人材の流出を防ぐ対策とはなっていない状況である。手だてをしていかないと、増大する高齢者をみることができないと懸念するが、詳しい情報はこれ以上ない。

影山会長 介護職員の確保・育成は重要な問題。国の方できちんと行ってほしい。私の姪は介護職員を務めているが、1年間の育休中である。その点は介護の現場もきちんとしており魅力ある職場であるが、給料面では厳しい。介護に進みたい高校生はどれくらいいるのか、花巻市では把握しているか。

高橋課長補佐 花巻市として独自にとらえているものはない。全国的にとらえている数値として、介護職場に入りたい人と辞めたい人は同じ割合であるというものがある。

佐々木（一）委員 福祉の学校を卒業しても、一般企業に勤める人もいる。

藤本委員 夫婦でも合わない人がいるのに、他人が介護することは難しい。介護する契約をしてから結婚しないと。

影山会長 人材の確保・育成は難しい。いいアイデアを出して、他を魅了する花巻方式があればよいと思う。問題はあるが、解決策がないことに難しさがある。先進的な取り組みをしているところがあれば、紹介してほしい。情報提供はこれまでとし、次に移る。

協議事項

（1）第6期介護保険事業計画策定に係るニーズ調査について（玉山課長が説明）

質疑応答

影山会長 ニーズ調査について。厚生労働省の項目を除き、市独自の項目について、委員の皆さんの意見を聞きたい。

高橋（修）委員 アンケート項目が多く、発送から回収まで、2週間しかない。対象は65才以上であり、突然送られてきて、理解するのは大変ではないのか。問い合わせに対し、どのような対応をしていくのか。直接聞き取りするのであればわかりやすいが、文書が送られてきて回答するのであれば、回収率がどれくらいになるか疑問である。

菊池係長 委員のおっしゃるとおり、高齢者にこれくらいのボリュームを回答しても

らうのは負担である。本人に代わり、家族が回答してもよい。前回より、国で7問、市で3問、質問が増えた。今回、国はアンケートを集約し、市町村間や地域間での比較を実施するため、質問項目を減らすことができない。また前は、3月2日に発送し、3月15日に回収した。大震災があった中で、回収率は65%を超えていた。問い合わせにはきっちりと応じていきたい。

熊谷委員 ケアマネとして。アンケートについては、家族がいればよいが、一人暮らしであれば、ケアマネに聞かれることがある。実際に手伝いをしてよいものか。また、独居や家族が協力的ではない場合、ケアマネへの手伝いが集中し、負担が大きくなるのではないか。

玉山課長 一人暮らしの場合は、お手伝いをしていただけるのであればよろしく願いしたい。集中する時期があるかもしれないが、協力願いたい。

藤本委員 問15の在宅生活のところに「施設入所の希望」や「いくらくらいなら施設に入りたいか」などを入れてはどうか。

菊池係長 調査票は一般と介護に分かれている。施設入所については、介護の方に盛り込んでおり、一般の方は元気で暮らしていることを念頭に、ここでは質問に入らなかった。

那須委員 前回のアンケート結果により、市の事業に反映されたものはあったのか。

玉山課長 具体的にはわからないが、ニーズ調査をやってどのようなサービスを必要としているか、サービスに厚みをもたせるよう計画に反映させている。

高橋課長補佐 ニーズ調査は第5期で初めて実施したもの。主に継続しているサービス内容について質問しており、新たなサービス等に関する設問が少なかった。質問の仕方も悪く、計画に反映できなかったため、これらを考慮した設問とした。

狩野委員 より面倒くさいアンケートになっているのでは。2週間での回答は難しい。

菊池係長 委員の皆さんからの意見もありましたので、回収期限を14日までとか1週間とか延ばすよう変更したい。

藤本委員 期限を延ばすこととし、まずは実施することが大切だ。

影山会長 高齢者の負担とならないように、期間を少し長くし、対応するように。第6期計画策定の際に、ニーズ調査の結果が示される。調査の結果が計画に反映されているかどうか確認したい。市独自項目については、これでよろしいか。

(委員より「はい」と声が上がる。)

影山会長 回収率60%以上は高い数字である。ケアマネにも苦勞をかけると思うがよろしく願いしたい。その他の協議事項はあるか。

高橋課長補佐 事務局からはありません。

影山会長 事務局からはなしということなので、これで終わりとする。

6 閉 会